

# 大豆管理情報 (第4号)

## 1 気象経過

### (1) 気温

6月の平均気温は21.4℃(平年差+0.5℃)と平年並みだった。

7月の平均気温は25.5℃(平年差+0.6℃)と平年より高かった。

8月上旬の平均気温は30.0℃(平年差+2.9℃)と平年よりかなり高かった。

### (2) 降水量

6月の降水量は206.0mm(平年比113%)と平年より多かった。

7月の降水量は144.0mm(平年比60%)と平年より少なかった。

8月上旬の降水量は0mm(平年比0%)と平年よりかなり少なかった。

### (3) 全天日射量

6月の平均日射量は17.1MJ/m<sup>2</sup>/日(平年比106%)と平年並みだった。

7月の平均日射量は15.9MJ/m<sup>2</sup>/日(平年比99%)と平年並みだった。

8月上旬の平均日射量は25.3MJ/m<sup>2</sup>/日(平年比136%)と平年よりかなり多かった。

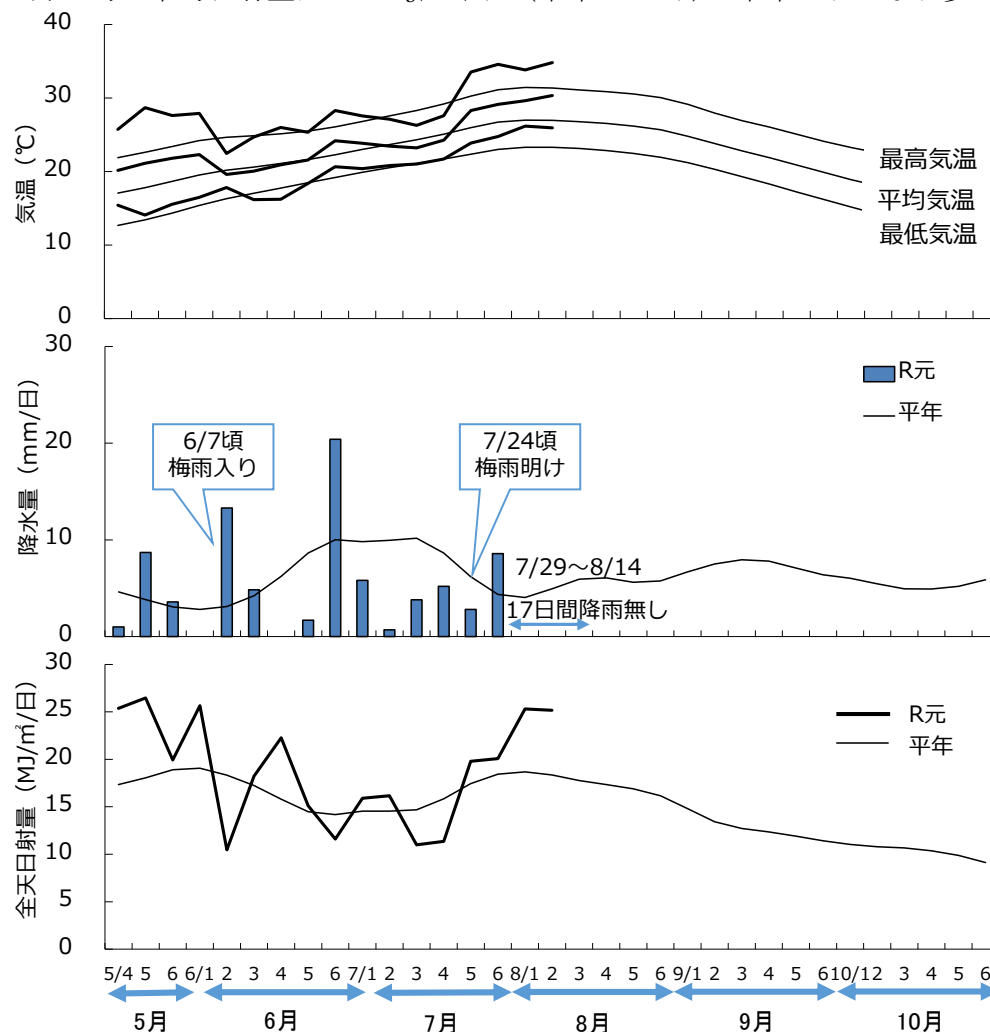


図1 大豆生育期間の気象経過(富山地方気象台)

## 2 生育経過（生育観測ほ）

### (1) エンレイ

- ・単作は、主茎長 71.1cm、本葉葉数 13.2 葉、一次分枝数は 1 株あたり 2.2 本であった。  
 平年に比べ、主茎長、本葉葉数は並み、一次分枝数は 1 株あたり 0.6 本少なくなっている。
- ・麦跡は、主茎長 72.6cm、本葉葉数 12.1 葉、一次分枝数は 1 株あたり 2.9 本であった。  
 平年に比べ、主茎長は長く、本葉葉数、一次分枝数は並みであった。

### (2) シュウレイ

主茎長 72.7cm、本葉葉数 12.7 葉、一次分枝数は 1 株あたり 3.6 本であった。

表 1 大豆生育観測ほ調査結果（8月13、15日調査）

（8月15日現在）

|       |        | 播種月日<br>(月/日) | 栽植本数<br>(本/m <sup>2</sup> ) | 主茎長<br>(cm) | 本葉葉数<br>(葉) | 一次分枝数<br>(本/株) | 開花期   |       |
|-------|--------|---------------|-----------------------------|-------------|-------------|----------------|-------|-------|
| エンレイ  | 単作     | R元            | 5/29                        | 17.4        | 71.1        | 13.2           | 2.2   | 7月20日 |
|       |        | 30年           | 5/31                        | 17.3        | 73.7        | 12.7           | 2.3   | 7月18日 |
|       |        | 平年            | 5/30                        | 16.1        | 73.3        | 12.6           | 2.8   | 7月17日 |
|       |        | 平年比(差)        | -1                          | 108         | 97          | 0.6            | -0.6  | 3     |
|       | 麦跡     | R元            | 6/3                         | 17.3        | 72.6        | 12.1           | 2.9   | 7月22日 |
|       |        | 30年           | 6/9                         | 16.9        | 60.2        | 12.2           | 2.9   | 7月23日 |
|       |        | 平年            | 6/10                        | 16.7        | 62.7        | 11.6           | 2.9   | 7月24日 |
|       |        | 平年比(差)        | -7                          | 104         | 116         | 0.5            | 0.0   | -2    |
| シュウレイ | R元     | 6/8           | 15.1                        | 72.7        | 12.7        | 3.6            | 7月24日 |       |
|       | 30年    | 6/8           | 15.3                        | 60.3        | 12.5        | 3.2            | 7月24日 |       |
|       | 近年     | 6/6           | 15.3                        | 67.8        | 12.1        | 3.4            | 7月23日 |       |
|       | 近年比(差) | 2             | 99                          | 107         | 0.6         | 0.2            | 1     |       |

注1) 調査ほ場数: 単作エンレイ(5ほ場)、麦跡エンレイ(3ほ場)、シュウレイ(単作1ほ場、麦跡2ほ場)

注2) 本葉葉数は、H22以降は0.5葉刻み、それ以前は0.1葉刻みの測定による平均

注3) 平年値はH21~H30、シュウレイの近年値はH22~30の平均

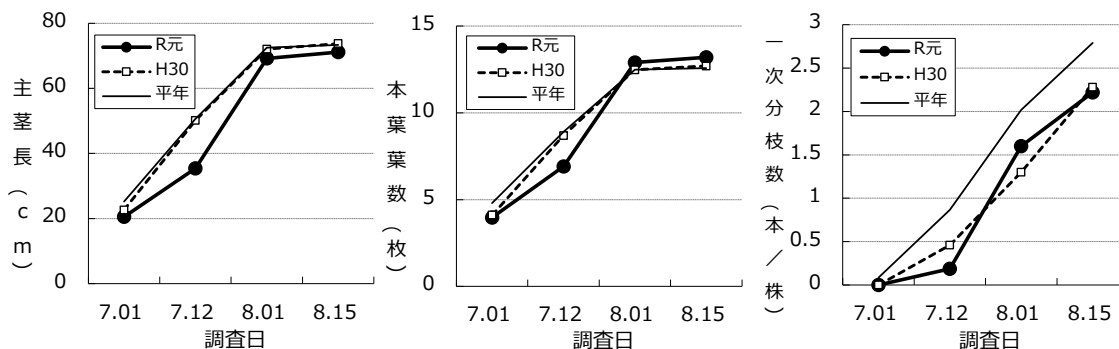


図 2 単作エンレイの生育経過

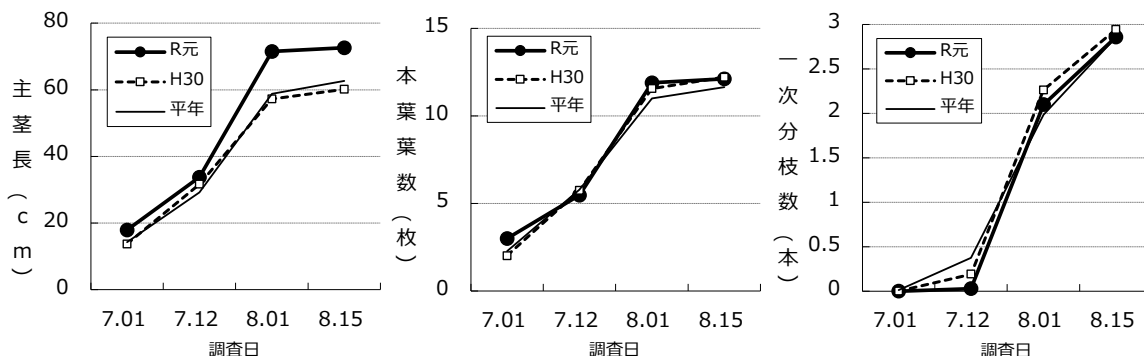


図 3 麦跡エンレイの生育経過

### 3 当面の技術対策

- 今後も、高温が続くと予報されている\*ことから、3日以上晴天が続いた場合は、土壤の乾き具合に応じて積極的に畦間かん水を行う。
- 紫斑病及びカメムシ類の2回の基本防除を徹底するとともに、害虫の発生状況に応じて追加防除を行う。
- 難防除雑草の発生が見られる場合は、雑草の結実前に防除を徹底する。

※高温に関する早期天候情報（北陸地方）（8/15 新潟地方気象台発表）  
2週間気温予報（富山県）（8/13 気象庁更新）

#### （1）土壤の乾き具合に応じて畦間かん水を実施

- ・現在、大豆は最も水分を必要とする時期となっている。水分ストレスは、落莢や百粒重の低下をもたらし、青立ちやちりめんじわ粒等の発生を助長する。9月上旬頃までの期間、3日以上晴天が続いた場合は、土壤の乾き具合に応じて畦間かん水を行う。
- ・かん水は短時間で実施し、ほ場全体に水が行き渡ったら入水を止めて速やかに排水する。
- ・水稲も含め、地域での計画的な用水の利用に努める。

#### （2）適期の病虫害防除の徹底（表2）

- ・基本防除：紫斑病及びカメムシ類の2回防除の徹底  
散布の際には、同一系統の薬剤の連用は避け、莢や茎葉に薬剤が十分付着するようにする。
- ・随時防除：病虫害の発生状況に応じた適期防除の実施  
〔葉焼病〕 強風等により葉の破損が予想される場合は、その直前または直後に防除を行う。  
〔カメムシ類〕 2回の基本防除後も発生状況に応じて追加防除を行う。  
〔ハダニ類〕 発生が多い場合は、葉の裏側に薬剤が十分かかるように防除を行う。  
〔ハスモンヨトウ〕 若齢幼虫による白変葉被害が見え始めたら、早急に防除を行う。

表2 生育期における大豆害虫の防除要否判定の目安と防除時期等

| 調査・観察時期 | 対象害虫            | 防除要否判定の目安                       | 防除時期等          |
|---------|-----------------|---------------------------------|----------------|
| 8月中下旬   | カメムシ類、ハスモンヨトウなど | 基本防除<br>(紫斑病とカメムシ類等との同時防除)      | 8月中下旬          |
| 8月中下旬～  | ハダニ類            | 黄化した葉が見られたら                     | 黄化葉の除去<br>随時防除 |
|         | ハスモンヨトウ         | 白変葉が見られたら                       | 白変葉の除去<br>随時防除 |
| 9月上旬    | カメムシ類           | 1.8m間払い落とし虫数2頭以上 <sup>1)</sup>  | 即時             |
|         | フタスジヒメハムシ       | 1.8m間払い落とし虫数42頭以上 <sup>2)</sup> | 即時             |

1)高岡農林振興センター、2)福井県の防除要否判定の目安を参考

#### （3）雑草対策の徹底

- ・雑草が残っている場合は、雑草の種類や葉齢に応じて除草剤を適切に使用する。
- ・水田周辺等も含め、帰化アサガオ類やイヌホオズキ類等大型の難防除雑草の発生に注意し、雑草が実を結ぶ前に防除（除草剤散布、手取り、地際からの刈取り）を徹底する。なお、刈り取った雑草は放置せず処分する。特に、イヌホオズキ類の液果は汚損粒の原因となるため、防除を徹底する。